

科目責任者 岸野 吏志 (薬剤情報解析学教室)

■ 教育目的

医薬品の適正使用に必要な医薬品情報を理解し、正しく取り扱うことが出来るようになるために、マルチメディアを利用して医薬品情報の収集、評価、加工、提供、管理に関する基本的知識、技能、態度を習得する。

■ 学習到達目標

1. 医薬品の適正使用のための情報収集法、評価法を理解できる。
2. 医薬品情報源としての一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。
3. 医薬品情報源を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。
4. EBMの基本概念と有用性および実践のプロセスを概説できる。

■ 準備学習（予習・復習）

予習：医薬品情報の意義と必要性を調べておく。

復習：医薬品の適正使用に必要な医薬品情報の重要性を実践と結び付けて理解する。

■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	情報	概論	C15 (1) -1-1、2 3、4、5
2	情報源 1	医薬品情報の種類と特徴	C15 (1) -2-1、2、3
3	情報源 2	医薬品添付文書（医療用・一般用）	C15 (1) -2-4、5
4	情報源 3	医薬品添付文書とインタビューフォーム	C15 (1) -2-6
5	データベース	医薬品情報データベース、医薬品情報の検索	C15 (1) -4-1、2、3
6	収集・評価・加工・提供・管理 1	目的に合った適切な情報源の選択と検索、収集	C15 (1) -3-1、2
7	収集・評価・加工・提供・管理 2	医薬品情報の加工、提供、管理	C15 (1) -3-3、4、5
8	医薬品の開発過程と収集する情報 1	非臨床試験、臨床試験	C15 (1) -1-3
9	医薬品の開発過程と収集する情報 2	市販後調査	C15 (1) -1-4
10	EBM (Evidence-Based Medicine) 1	基本概念とプロセス	C15 (1) -5-1、2 4、5
11	EBM (Evidence-Based Medicine) 2	臨床研究のデザイン（コホート研究、症例対照研究）	C15 (1) -5-3
12	臨床適用上の効果指標	オッズ比、必要治療数、感度、特異度	C15 (1) -5-6
13	個別化医療に必要な医薬品情報	遺伝的要因、年齢的要因、生理的要因、合併症	C15 (3) -1-1～ C15 (3) -4-3
14	総合演習 1	医薬品に関する論文の評価	C15 (1) -6-1、2
15	総合演習 2	まとめ	C15 (1) -6-1、2

■ 授業分担者

No.1、8～15：岸野 吏志、No.2～7：大野 恵子

■ 成績評価方法

期末試験の成績（100％）で評価する。

■ 教科書

『医薬品情報学』（廣川書店）
プリント

■ 参考書

『医薬品情報学』（南山堂）
『EBM 実践ワークブック』（南江堂）